

IV-29 高齢者の横断歩行中の事故防止について

建設省 四国地方建設局 四国技術事務所 川田 昭彦
金滝 和彦
○淀 宏治

1. はじめに

近年、我が国の人口の高齢化は急速に進行している。平成9年度末における65歳以上の高齢者人口の割合は、四国地区で20.2%と全国平均15.7%を5%近くも上回っており四国地区の人口の高齢化は確実に進行している。また、高齢者の交通事故件数も人口の高齢化に伴い増加傾向にある。

このような状況の中で本研究では、特に四国地区で多発している「高齢者の横断歩行中の事故防止」に焦点を絞り、特に高齢者の人間工学・心理学的観点から、事故の発生メカニズムの解明や有効な事故対策の検討を試みるものである。

2. 事故発生メカニズムの解明

2.1 事故詳細分析

平成2年～平成6年の5年間で高齢者横断歩行中事故の多かった直轄国道の上位6箇所において、事故原票等より詳細な事故データの整理及び、現地周辺の状況を調査し、道路状況に関する問題意識の整理・分析を行った。図-1に事故原票より得た主な結果を示す。

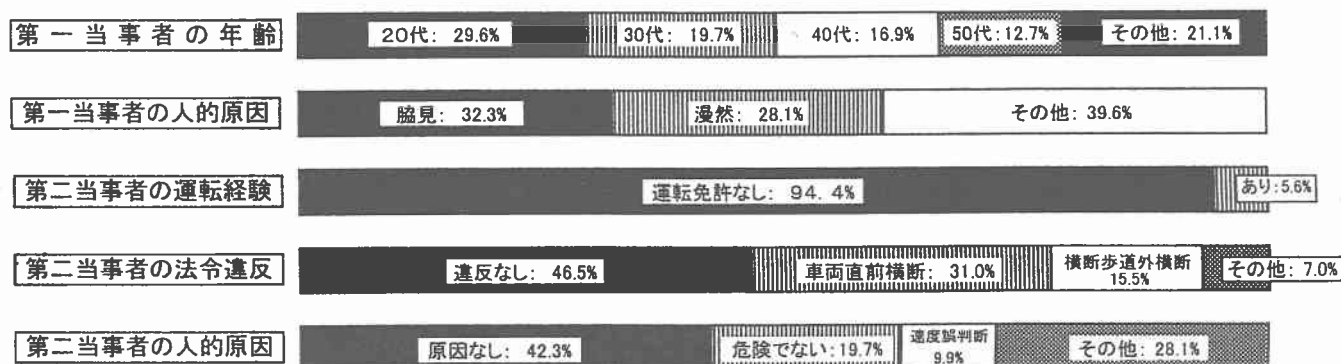


図-1 事故原票より得た主な結果

2.2 高齢者の横断歩行特性に関する調査

高齢者の横断歩行特性を把握するため、上記事故多発地点周辺在住の高齢者で、事故体験者や危険体験者を対象としてヒアリング調査を行った。また、あわせて高齢者及びプロドライバーを対象としてアンケート調査を行った。アンケート有効数は高齢者が281、プロドライバーが410であった。図-2・図-3にアンケートの主な結果を示す。

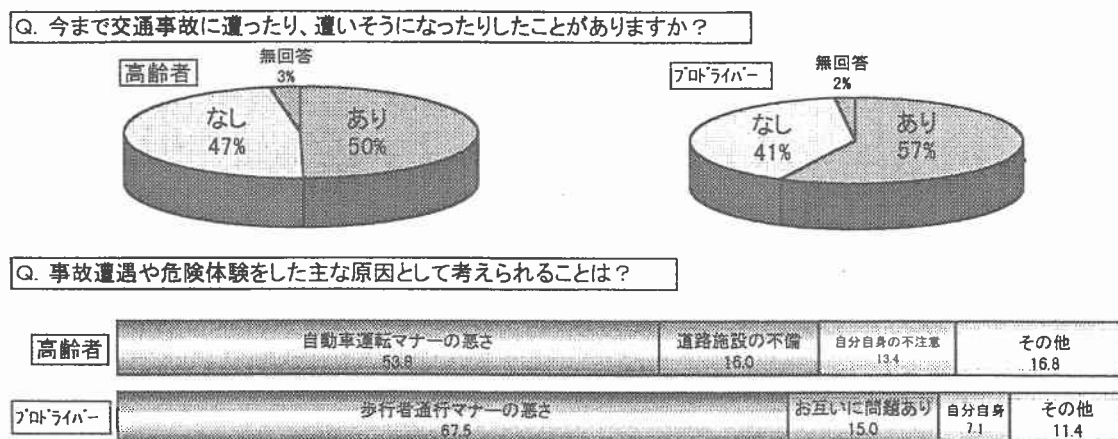
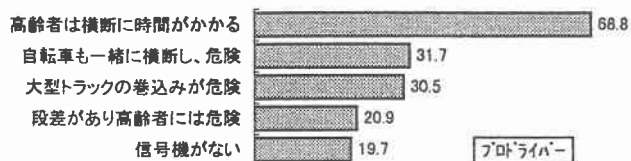
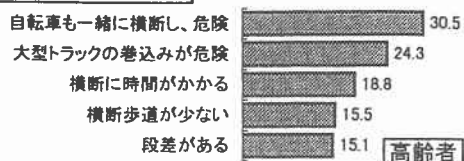


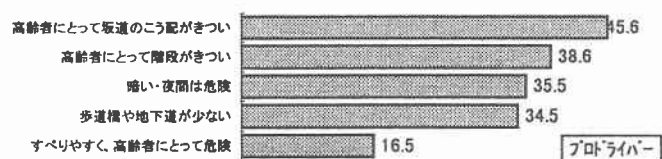
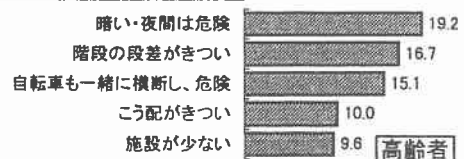
図-2 アンケート調査結果 <その1>

Q. 以下の横断施設についてどのように感じていますか？〔複数回答〕

横断歩道について



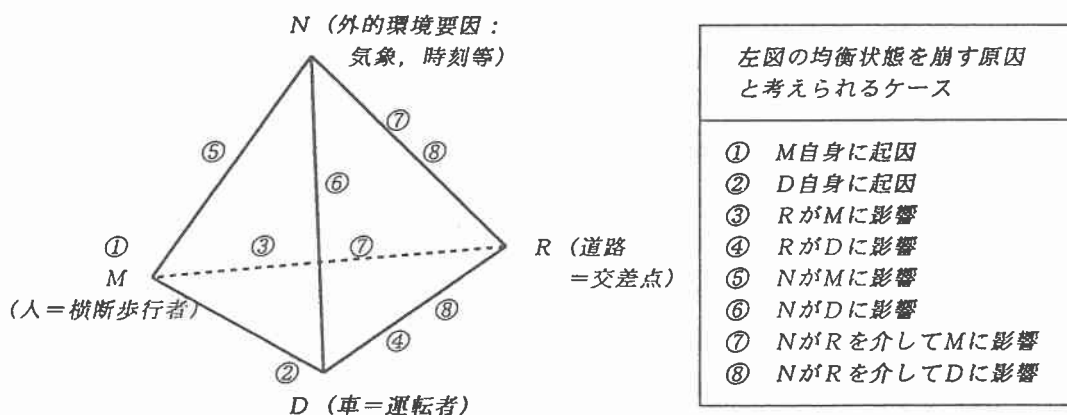
歩道橋・地下道について



図－3 アンケート調査結果 <その2>

2. 3 事故発生メカニズムの分析

高齢者の横断歩行中の事故は、図－4の概念図に示す歩行者・運転者（＝車）・道路・外的環境要因が相互に結びついて形成されている均衡状態が、あることが原因で崩れた時に発生すると考えられる。この仮説を証明するために、事故詳細分析・アンケート等の結果を分析し、各ケースごとの事故発生要因を整理した。なお、ケース④を例として、表－1に示す。



図－4 事故発生メカニズムの概念

表－1 例：ケース④の具体的事故発生要因

ケース④ 道路が運転者に影響	・ 道路構造（線形等）の不備による運転者からの見通しの悪さ ・ 交通渋滞区間に隣接する郊外部などの比較的見通しの良い平坦な直線区間における漫然運転や速度超過の多発 ・ 道路横断に関連する交通安全施設や交通処理施設の不備による横断者確認の遅れ ・ 道路環境の変化に気づいていないことによる運転操作ミス
-------------------	--

3. おわりに

以上の検討結果に基づき、事故多発区間・箇所が高齢者横断歩行中事故の発生原因をどの程度はらんでいるかを事務所レベルで大まかに判定することのできる『道路交通環境チェックシート』を作成するとともに、チェック項目毎にその原因を排除し事故の軽減を図るための対策内容と期待される対策効果、適用箇所及び対策対象を整理した『対策カード』を作成した。

今後は『道路交通環境チェックシート』及び『対策カード』を用いて試験施工を実施するとともに、その対策の有効性について検討した結果をそれぞれに反映させ、必要に応じ見直し等を行いながら利用しやすいものへ質を高めていきたいと考えている。